

項目	内容
名称	蜂の子 [英]Bee brood (pupae and larvae) [学名]Apis spp. (ミツバチ)、Vespula flaviceps (クロスズメバチ) など
概要	蜂の子は、ハチ目に分類される昆虫である蜂の幼虫やサナギ。中国では蜜蜂子または蜂子の名で解毒などを目的として中薬として用いられたという記録がある。ラテンアメリカ、アジアなどで食用とされてきた歴史があり、日本では岐阜、長野、岡山、愛知、静岡などの山間部を中心に日本各地でミツバチ、クロスズメバチ、オオスズメバチ、アシナガバチなどの幼虫やサナギを食用にする風習がある。タンパク質、ビタミンA、B1、B2、鉄などを含み、栄養価が高いとされ、主にクロスズメバチやミツバチの幼虫が佃煮や甘露煮として市販されているほか、蜂の子を原料とした健康食品がある。
法規・制度	■食薬区分 ・ハチ (ハチノコ) ハチの幼虫：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・たんぱく質、脂質、鉄などが豊富である (76) (101)。 ・キチンを含む (101) (102)。 ・はちの子缶詰の栄養成分については、日本食品標準成分表を参照 (103)。
分析法	-

有効性

循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない
肥満	調べた文献の中に見当たらない
その他	RCT ・片耳の耳鳴りを自覚する男女58名 (試験群29名、平均64.9±11.3歳、日本) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、凍結乾燥・酵素分解蜂の子粉末を720 mg/日、12週間摂取させたところ、耳鳴り障害度 (Tinnitus Handicap Inventory) の総合評価、自己評価による耳鳴りの重症度、血中ホルモン (プロラクチン、コルチゾール、デヒドロエピアルドステロン、アルギニンバソプレッシン、アルドステロン、エストラジオール、遊離テストステロン) 濃度に影響は認められなかった (PMID:21971082)。

参考文献

- (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について)
(101) Ecol Food Nutr. 2005;44(4):257-70.
(102) J Food Sci. 1985;50(5):1327-9.
[\(PMID:21971082\) Ear Hear. 2012 May-Jun;33\(3\):430-6.](#)
[\(103\) 日本食品標準成分表2015年版\(七訂\)について](#)
[\(104\) FOOD AND AGRICULTURE ORGANIZATION OF THE UNITED NATIONS
2013 Edible insects Future prospects for food and feed security](#)
(105) 日本食品大事典 医歯薬出版
(106) 人文地理. 1989;41(3):82-96.
(2014150409) J Environ Dermatol Cutan Allergol. 2013;7(5):493.
(2015209386) Derma. 2015; 229:119-124.